麻生市民館岡上分館

石川岳司分館長
（2019 年 10 月 29 日）

麻生市民館岡上分館は、生涯学習支援を目的とした教育機関の一つです。鶴川駅徒歩７分に位置し、学習室などの部屋の貸し出しの他、子育てからシニアまで、様々な世代を対象とした教育・学術・文化に関する学級、講座を行なっています。また、市民が自主的に講座等を企画運営する市民自主学級を実施しています。

■岡上分館さんは、麻生市民館の小型の岡上版と考えてよろしいのでしょうか？

川崎市は７区にそれぞれ市民館を持っているのですが、交通の便を考えて、いくつかの区には分館があります。岡上は飛び地なので、岡上地区担当として事業に取り組んでいます。地域に即した事業を行うという点で、分館は独自性が強いと思われているのかもしれません。

■岡上という地域性で特別に取り組んでいる事業はあります？

社会教育施設ですので、主催事業としては市民館と同様のものです。子育て世代向けの家庭地域教育学級や、シニアの社会参加事業などがあり、毎年、講座の内容は異なっていますが、テーマの大枠は他の市民館と同じです。また、独自の事業とまでは言えないのですが、地域の連携で小学校の図書室とつながっていたり、地域で開催される“おかがみふれあいまつり”に協力しています。

■“おかがみふれあいまつり”とはどのようなものですか？

町内会含め、地域一帯で世代を超えた交流を図ろうという趣旨で、岡上こども文化センターが事務局となって開催しています。こども文化センターがメイン会場ですが、分館は、ステージの控室や陶芸などの展示会場として協力しています。

■そのお祭りに協力して、住民の方から認知されるようになりましたか？

実はオープンしてから 40 年経つのですが、いまだ認知されていない感じです。講座を受けにきて、はじめて知った、近くにこういう施設があるとは知らなかったという方はまだいらっしゃいます。

■認知度をあげるため工夫していることはありますか？

分館が、駅からこちらの地区に帰る方の通り道に面しているので、閉館してからもチラシを手に取ってもらえるよう外の掲示板に透明のレターケースを設置しています。ここに市民館の分館であることも知らない人もいるかもしれませんが、続けることが大事と思っています。

■実際の効果はどうですか。講座の受講生が増えたなど。

岡上に住んでいる方の反応が特に強いわけでもないので、掲示板の効果は微妙です。実際の講座の参加者は、高石など遠くから、区全体からいらっしゃっています。

■友達の口づたえなど、チラシを見ないで来ているのでしょうね。

そうですね。若干いるのかもしれませんね。ただ、こちらから友達にお誘いあわせを促したところで効果は薄いでしょうね。というのは、ここは趣味の活動の場ではなく学習の場でもありますので。生涯学習は自発的なものなので、口づたえでの参加へはつながりにくいです。貸館という面であれば趣味やサークル活動にも使われていますが。

■ここを中心に活動されている団体は何団体位いらっしゃるのですか。

使用している団体は 200 ～ 300 団体。岡上だけではなく麻生区や多摩区、町田などのサークルも使用しています。鶴川の駅のポプリホールが使えないから、代わりにという形で。ここを中心にだと少ないかもしれない。岡上の名前を付けているサークルは数えるほどですね。

■常に施設は開放しているのでしょうか。

登録制で、ふれあいネット（公共施設の予約システム）の予約が必要です。市内の団体に限定しているわけではなく、市外の方や個人の方も一定期間過ぎたら使えます。有料ですが。

■団体やサークル同士でつながったという話はありますか？

利用しているサークルは、自分の好きな仲間が集まっている同好会なので、ほかのサークルとつながろうという意識は希薄です。場所さえ取れればよいので、岡上で活動しているという意識はないのかもしれません。

■将来はこうしたらいいという希望はありますか？

何十年も使える建物ではないですが、高齢者だけでなく若い人に使ってもらえる施設にならないと存続は難しいなと感じています。そのためにも、学生さんや若い世代の社会人の方が望むよう、音を出せる防音スペースがほしいです。ここには視聴覚室や音楽室がないので、今は大きな音を立てない範囲で、というスタンスで対応しています。麻生区と言えば麻生音楽祭とか音楽の盛んなまちでもありますし、そのジャンルにこだわるわけではないのですが、協力できる施設になれたらと思っています。

■若い人に使ってもらえるような施設にしたい？

ここは、和光大学や国士舘大学と大学が近いので、学生さんをはじめ、中、高校生、金曜や土曜日の夜で言えば社会人の方々に使っていただけるとありがたいですね。世代がつながるという意味で、特に続けたいのは小学生向けの講座です。というのは、子どものころに行ったことのない施設に大人になっても行こうとは思わないでしょうから。子どものころに、あそこでお祭りやったな、昆虫観察やったなと、そういう記憶が残っていれば、大人になったらお手伝いしようかなと、循環的な流れが生まれるのではと思っています。

■こども文化センターと似ているようですが。

あちらは生涯学習でなく、放課後の子どもたちの居場所の面が強いのかもしれませんね。こちらは社会教育施設から出発しているので、遊びだけでなく、農作物に親しむ、ミュージカルを通じて音楽に親しむ、などの学習的な要素が入ってくる。ここでイベントやるからといって、単なるお祭り行事で終わらせるわけにはいかず、地域の活性化の促進などにつなげていく必要があります。
ただ、そういう条件があっても、子どもが来たくなる要素は大事。地域との関係が途切れないよう子どもにも親しんでもらえる施設でありたいと思っています。

■だから小学生向け講座を開いて、来てもらっているのですね。

そうですね。中学生、高校生になると、どうしても部活や遠くの高校に通学するという理由で、地域から離れてしまう。それでも、社会人になって実家や地域に戻ってくるかもしれない。そのときにつながればいいかなと思っています。

■生涯学習って、そもそもどのようなものなのでしょうか。

もともとから言えば民主主義、新憲法の勉強からと聞いています。上から教えてもらうではなく、みんなで考えようと、そういうところから生まれています。
講師が教えますよ、ではなく、私の考えはこうですが、皆さんはどうですかと、受講者自ら考えて、自分たちで答えを出してもらうことが大切です。

■一方通行ではないってことですね。

学校教育は決まった答えを学ぶことが多いですよね。一方で、生涯学習は自ら考え、100 人いたら 100 個の答えがあるという考えです。
たとえば、シニアの講座で「健康とは何か」というテーマで開催したとき、○○をすると健康になりますよと、それは全員に当てはまる基準ではありませんよね。こうしたら良い、これが正しいという答えはそれぞれみんな違います。私たちは教育免許を持っていないので、みんなが考えるための「気付き」を提供し、自ら考えてもらう、そういう場なのです。

■気付きの場なのですね。

多くの講座はワーキンググループで話し合う機会を用意しています。お互いに気付いたことを発表すれば、みんな違う答えが出てきます。勘違いされがちなのは、著名な講師が講演すると、その通りだと思ってしまう。たとえば、大学の先生から子育てについて、こう言われたからそれが正しいと鵜呑みにしてしまう。しかし、子どもの性格、家庭環境はそれぞれ違います。そういう考え方もあるんだな位のスタンスで聴いてもらった方がよいと思います。講師の言葉を 100%信じないで、いろんな角度でものを見ることの大切さに気付いてほしいです。
その上で、さらに学びを深めてみようという仲間ができたら、月に一度雑談でもいいから集まってみましょうと。
そこからスタートして、何々勉強会や研修会というグループに発展していくという形もありだと思っています。

■今までもそういう発展はあったのですか。

地場野菜から健康を学ぶ講座から、料理のサークルが立ち上がった例があります。今は、十何人かで活動していて、食育指導員を招いて、メニューの勉強会も開いているようです。独自に活動をはじめて3年位経っていますね。また、宣伝になってしまいますが、今年のシニアの社会参加支援事業では、「色鉛筆で描く岡上の秋」という講座を開きました。この講座は、趣味もなかなかなくて地域に溶け込めない方に、地域の活動へ促すことができたらという趣旨で開催しました。今回は、岡上に住んでいる方に岡上の風景に親しんでもらうとともに、郷土史の話を取り入れ、歴史的な背景を知っていただくよう企画したんですけど、残念ながら、他の地域にお住いの方からの参加が多かったですね。

■みんな、緑自然豊かな環境に憧れていますからね。

ただ、昔に比べるとだいぶ家が建ちました。この分館のそばも2～3年前は竹林が多くて。でも、新しく家が建って引越しされた方が、お子さんと一緒に来れるような、そういう講座を開いています。

■一番の課題ってどういうものでしょう。

やはり若い世代に使ってほしいと思うけど、なかなか活用されていない。その原因は広報だと言われていますが、こればかりは、新百合ケ丘で頑張ったところで難しい。岡上の町内会に独自で回覧の広報はしていますが。また、生涯学習支援施設の持続的な運営という面では、今使っている方々の利便性ばかりを図るだけではなく、将来の方々のために、という視点が必要ですね。

■土曜日や日曜日に、さまざまな世代が一緒に音楽をやってみるとかそういう場になるといいですね。

カフェ形式では実際にやっているけど、結局若い方は来なくて、高齢の方が多いです。数年前、分館を利用している音楽サークルを集めてカフェコンサートのスタイルのものも開いてみましたが、一緒につながろうとまではいかず、知り合いができた程度で終わりましたね。

■お孫さんとか連れてくれると違うんでしょうね。でも今は核家族も多くて難しいですね。

そういう多世代を狙った講座を開いているのですが難しいですね。今年も、花を使ったまちづくりをテーマに花農家の見学を入れた講座を開きましたが、狙った層が集まらなかったです。また、周辺の環境を活用したという面では、今年、市民自主企画で「農家さんお邪魔します」という講座を開きました。地元の農家さんにも協力してもらって、直売所を訪問して、おいしい野菜料理の作り方を勉強するという内容です。

■分館は農家さんとの仲介役を担ったのでしょうか。

実際は、岡上で何かをしようと思っている人は、もともと地域のなかでつながっていて。企画者も農家さんも地元の方。一方、受講生は岡上とは限らず他から来ています。

■まあ、それで岡上の魅力が伝わり、岡上と他の地域との交流が生まれ、そこでつながって、来年も行こうという気になればいいですね。

確かに、岡上の方だけに限定して募集しているのではないですし。ただ、それでも岡上地区の方々の反応が少ないのが悩みですね。忙しい世帯が多いのか、ただ強引に出てくださいというものでもないですし。

■企画者は、地域の方が多いと話があったのですが、どういう方が多いのでしょうか。

もともと別の講座から発生した仲間同士で、そのなかから新たな提案があがったケースもあります。たとえば、家庭地域教育学級の講座に参加した方が子育てサークルを結成し、今度は、自分の子育てが終了したから、次の世代のために自分たちで講座をやっていこう、という流れです。

■すぐには効果が見えないが、10年単位でみると結構つながっているってことなんですね。

そこが途絶えないためにもやはり中高生にきてほしいなと思いますね。

■どこも悩みを抱えているところですが、サークルの方々が高齢化して利用が減った等はありますか。

ありますね。これからだんだん増えてくるんでしょうね。ここで活動されている方は10数年前から活動されていますので。ただ、70歳が中心のサークルが50歳の方を募集するのは考えにくいと思います。こちらで独自に情報を集めているサークルカードという台帳には、50サークル位の登録があるのですが新規会員を募集していないサークルもあります。やはり同世代の方が気心知れているので、そのうちに自然消滅という流れになってしまうのかなと。

■固定されているメンバーのなかへは入りづらいという話はよく聞きますね。

卓球、フォークダンスなど、仲間と同じレベルでやって

いたいという意向もあるのではないでしょうか。ただ、何かを学ぶようなサークルさんなら、先生をお呼びして講座を開くという形もあるのかなと思います。先生が主催して講座を開くのは、市民館的には塾になってしまうのでまずいのですが。若い世代の人がサークルを作って上のベテラン世代の方を講師として招くという形なら世代間のつながりが生まれるのかもしれないですね。一方で、先生が中心のサークルは先生の活動が止まってしまうと消滅してしまうのが一般的です。

■新しい方が入ってくれないとそうなってしまいますね。

一時期、趣味の分野ですがカルチャーセンターが流行った時期がありました。しかし、そのときにはじめったサークルがいつまでも継続できるわけがなくて、こちらも新しい方の需要に応えられる施設にしないと。
そういう意味では、最近は会議をする人はいないと思う。どちらかというとフリーなスペースが求められているのかな、と思っています。それで、2階の集会室は机と椅子ははじめから片づけておいて、必要な数だけ出してもらう形にしました。実際に、それを望んでいるサークルさんもいらっしゃいます。最近は、フォークダンスの利用が多くなっています。体育室代わりに使ってもらえる。ハードの対応も必要なんでしょうね。

■確かに、ヨガなど健康の面に関連した需要が多いですね。

ヨガはマットがあればできますよね。空間があればいい。これから求められているのは会議室ではなく、そういう多目的に使えるような場なのでしょう。
さらに言えば、音を出しても大丈夫なところ。大体、今の活動は音楽が関連しています。踊りましょう、演奏の練習しましょうと。完全防音は難しいのでしょうが、そういう利用が求められているかなと。今は、生涯学習というイメージがあるから、講師机があって前を向いてと、昔ならの学習室というスタイルになってしまっているけど。でも実際は、そういうサークルばかりではなく、何かをフリーに活動する場がほしいという要望があって。実習室は工作もの、料理室は料理と限定するものではなく、どんな形でも自由に使える空間が求められているんではないのかなと。

■自由に使える、フリーな日があってもいいのかもしれませんね。こういうこともできますよとみたいな。

そうするとほかのサークルも集まって交流できるし、個人単位でもいいですね。それこそ仲間のづくりのきっかけになりますよね。

■こちらではおりがみ、こちらで生け花と。やまゆりのクラフト展はそういう形で開いています。秋に体験会や小物の販売もつけて。ちょうど年賀状づくりのシーズンなので、ちぎり絵や、消しゴムでハンコを作ったりといろいろな団体さんが出ています。

やまゆりさんと違って、市民館では販売ができないのです。お祭り的な場を活用して間接的な広報まではできるかもしれませんが、特別に会員の増加に向けて手伝うことには限界があって、公平性の面から、特定の団体に直接的な肩入れができないのです。突き放した考えですが、お手伝いできるのは、皆さんのきっかけ作りまで。残念ですが、それ以上やってしまったら、社会教育施設としての趣旨と異なってしまう面もある。もしヨガがやりたいと言われたら、条件で絞るところまではできますが、この団体が良いですよとは言えない。ここからはご自身で選んでくださいまでしか言えない。もちろん、選択肢は沢山あった方がいいですけどね。

■そういう意味では“あさおナビ 2019”を活用してほしいですね。

あれは良いですよね。今の情報が掲載されていて。こうやっています、やりました、という情報は読み応えがあって効果がありますよね。分館の広報は、予告ばかりの広報なので。

■今年はこうでした、来年もよろしくお願いしますみたいな形のほうがいいですね。

市民館の講座は、毎年同じことをやっているわけでもないので、来年も、とはいえないところがネックですね。職員も変わるし、三か年、五か年計画で決まっているといいですが。年度ごとに企画しているので、その辺に違いがありますね。

黒川青少年野外活動センター

野口透所長
運営団体:NPO法人国際自然大学校
（2019年11月1日）

黒川青少年野外活動センターは黒川駅より徒歩３分。
もとは、柿生小学校黒川分校の校舎があった場所で、四季折々の自然に恵まれた場所にあります。自然の中で様々な野外活動を通して、自主性と協調性を育み、青少年の豊かな心と健康の体を育てることを目的とした施設です。

■黒川青少年野外活動センターはいろいろなイベントを行っていますね。

黒川青少年野外活動センターは、NPO法人国際自然大学校の私たちが指定管理を受けて運営しています。山梨県にキャンプ場等の拠点を持つアウトドアの老舗団体で、35年かけて培ってきた自然体験プログラムのノウハウを活かして、運営しています。

■周辺の地域住民の方も、利用されているのですか。

ボーイスカウト、ガールスカウト、こども会、保育園のお泊り保育、自主保育の団体さん、さらに、おじいちゃんおばあちゃんの健康体操など、さまざまな形で使っていただいています。平日は市民館的に、土日はアウトドア的な使われ方をされていますね。

■幅広い年代が利用されているということですね。

活動を続けるうちに、幅が広がってきました。小さい幼児は青少年の予備軍であるし、その応援団のお母さんとつながっていると、次のステップであるキャンプ事業の理解もスムーズです。また、シニアは、比較的時間に余裕があり、ノウハウを持っている方が多いので、事業のサポートをしていただいています。お孫さんの参加を促してくれるおばあちゃんもいました。最初は、青少年だから青少年だけ、という固い考えがあったのですけど、利用者の幅を広げることで、青少年団体さんの利用も結果的に増えています。

■世代間の交流が生まれていますね。シニアや子どもの団体が一緒になって交流するイベントもあるのでしょうか。

年に２回、「黒川のおもちつき」と「自然体験フェスティバル」という大きなイベントを開いています。どちらのイベントも参加者が600人ほど集まり、スタッフも180人ほどが活躍します。当日はお餅つきのほかにも、豚汁、マショマロ焼き、しめ縄づくり等を行っていますし、自然体験フェスティバルの方は、ドラム缶ピザやツリークライミング、モンキーブリッジ等も行っています。スタッフさんは利用団体のメンバーで、各コーナーの面倒を見てもらい、得意分野で力を発揮してもらっていますね。

■イベントの効果はありましたでしょうか。

長く続けてきたことで、利用団体さんがみんなでお祭りを盛り上げようという流れが生まれてきました。最初は顔を合わせるとギスギスしていて、うちはグラウンドをこういう風に使いたいと、主張が多かったのですが、最近は、ここまでは私たちの団体、ここからは誰々さんと、お互いがお互いの活動を理解するようになりました。

■利用団体さんが中心になってお祭りを運営しているのですね。

ここを預かってから14年経つのですが、長く続けていると、それぞれの団体さんがプロフェッショナル化してきまして、お餅つきでは、ボーイスカウトさんが100キロのもち米をつき、ついたお餅は、シニアの方がこども会と一緒になって丸めたりしています。

■すごいですね。量が半端ないのですね。続けることで、上手になるのですね。

自然体験の方でも、ボーイスカウトさんがドラム缶のピザを焼いていますが、こういうことは、最初はなかなかうまくいかないですよ。焦がしてしまったり、生焼けしてしまったりと、火をコントロールするのが難しい。続けることで、上の方はプロフェッショナルになり、中学生等、次の世代へ伝承する流れが生まれています。

■ところで、多くのイベントは、出店する団体さんも主催者任せになりがちですが、団体さんに主体性をもってもらうためには、どのような点がポイントになるのでしょうか。

こちらでやっていることは。お客さんに出すものなので、クオリティが求められる。そこにちょっとした面白さがあるのです。ピザやもちつきのほかにも、コーヒー焙煎はみ

んなが見ている前で手で豆を挽く。豚汁も大きな鍋で350人分、シニアの方が火を焚いてつくっています。

■スタッフがあらかじめ作ったものをただ配るのではなくて、作る過程から見てもらう点がいいのですね。

豚汁は、エコの観点から参加者に自前のお椀をもってきてもらい配っているのですが、入場料は同じで、一人1杯とお知らせしている。だから、分かっている人は、とても大きなお椀を持ってきて、それで大盛りくださいと注文します。面白いでしょ。しかし、そんななかでも、小さなお椀を持ってくる子もいるんです。そんな子に対して、配っているおばちゃんが「なんでまた小さいのをもってきたのよ、食べ終わったら内緒でもう1回来なさい」と声をかける。そんな掛け合いが楽しい。きっちり計って1杯何グラムではなく、昔ながらの八百屋さん的な駆け引きが楽しいのです。ただ、みんなに大盤振る舞いをしていると、鍋がすぐに空っぽになってしまう。そこで、私たちが裏で予備の豚汁を作って持っていく。スタッフも参加者として楽しめる仕掛けが大事ですね。

■年間スケジュールでは大鍋まつりとありますが、これはどのようなイベントでしょうか。

リスクをかけず冬にお客さんを集めようということで開いています。うちで作っている味噌で下味をつけ、一人1品、生もの以外の具材を持ってきてもらい、鍋に入れます。なかには締めの1品として麺を持ってくる方もいますね。多いときは70品目も集まります。終わったあとに毎回皆さんに聞くんですよ。「1日家で何品食べますか、ここに来れば70品、ありえないですよね」と。

■食育にもなりますね。

ただ、変な具材を混入されないように気を付けています。持ってきてもらった具材はいったん袋に入れ、テーブルに並べて、家族とともに写真を撮らせてもらっています。そのときも、それぞれに発表してもらうので、場は盛り上がります。面白いもので、年ごとに集まる具材に偏りがあって野菜が高騰したときは、貴重な野菜が出てこないんですよ。今年は大根や人参がやたら多いなとか。

■イベントのほかにも講座を開催していますね。

我々の得意な分野は自然なので、座っている話を聞く講座は少ないのが特徴です。シニア向けのアウトドアの講座は、仲間づくりの面が大きいですね。

講座がきっかけで、仲間とともにネイチャーボランティアという森の手入れにも協力していただいています。ほかにも、バーベキューや火おこしのブッシュクラフトの講座があり、こちらは指導者講習会として開いています。先日は、フードコーディネーターさんにきていただいて、アウトドアキッチンのお料理教室を開きました。

■開いてみてどうでしたか。

料理教室では、「おいしかったです」「今日も旦那に作ります」「そのままスーパーで食材を買って家で作って、SNSにアップします」などの反応をいただきました。その講座で気付いたのですが、うちの活動の多くは、非日常体験なんですね。ここでは、壺焼き芋やドラム缶ピザなどを行っているのですが、ほとんどの活動が家庭ではできない。いつも講座終了後に、「今日の体験を活かして家でもがんばろうね、学校でもがんばろうね」と、声をかけているんですが、それが現実にはできない。家庭でもすぐに活用できるような取り組み、日常に取り入れられるものも必要だよね、ということに僕らも気付きました。

■なるほど、日常に取り入れるものですね。

それではじめたのが、ガスコンロでコーヒーを焙煎する講座です。コーヒー焙煎って非日常的なものですけど、それを手軽にできると楽しいかもとはじめました。最近の人は、忙しくてそんなに時間できないよと言うけれど、その時間を作ってみたらどうですかと。テレビを我慢して、たった10分、20分でもそんな時間を作ることができたら幸せになれるよと伝えられたら。お父さんが、日曜日にだけでも焙煎する時間を過ごせば、そこから、いい具合に家族のコミュニケーションが生まれるんじゃないかと。

日常のなかに非日常のものを取り込むと、人生が豊かになる。そういうことも伝えていけたらと考えています。

■家庭で燻製などもできるのですか。

実は、中華鍋でも簡単に燻製ができるんですよ。ダッチオーブンがなくてもガスコンロでできる。おつまみのチーズなんて、あっという間にできてしまう。トラム缶ピザだって、家の魚焼きのグリルとフライパンを使って、おいしく焼けるんですよ。ここで作るピザと遜色なくできるのです。

ここで非日常の体験を楽しんで、そして日常にもそれを取り入れてください。そうすれば、家族のコミュニケーションが増えますよと。

■参加したい方が増えますよね。家庭で役に立つ技術がついて。

最近、多いのは、震災や台風の影響もあり災害関係の講座をやってほしいという依頼です。先日も区役所の方から話をいただいて、長沢中学校で１泊プログラムの出張講座を行いました。その講座では、災害時でも過ごせるように、雨でも火をおこせるメタルマッチの使い方やロープワークなどを教えました。

■これだけ災害があると、要望が多そうですね。

災害が発生してからやってみましょうでは、使いものにならない。説明書をもってきて、え～と、と悩んでいては役に立たない。自転車乗りと同じで、ふだん使えるように身に付けておかないといけない。テントを買わなくても、ロープの結び方を知っていれば、簡単にシートを張ることができる。技術を知っていれば、どの場面でも役に立つ。講習で必ず伝えることは「今日、皆さん受講しました。これから宿題を出します。近所にいる方や子どもたちに教えてください」と。教えると覚える。使えるとやりたくなる。じゃあ家族でキャンプ場に行こうかと、外へ出るきっかけをつくってあげる。そういうところでうまく結び付いていけば。

■日常に活かすという視点が大事なんですね。

非日常が多いんですけど、どうにかして日常に結び付けていかないと。他の施設の職員研修をやらせていただいたときに、うちにはドラム缶がないのでドラム缶ピザは、できない、と言われてしまったんですが、じゃあ、作ればいいんじゃないのと。
予算がなくても、ある物でできるんじゃないかと。できないできないばかりではなく、アイデア、発想が大事だと思います。

■最近は、お金を出してサービスを受けるという発想になってしまうけど、そうではなくて身近なものを使いこなすという発想が大事なんですね

キャンプへ行くと炊飯器スイッチ一つでご飯は焚けない。鍋に入れる水の量ってどうすればいいんだろうと。道具がシンプルになればなるほど、知恵や工夫、人間力が必要になってくる。使いこなす力が災害時に役に立つ。多少の手間ひまがかかりますが、そこが楽しめる。そこを忙しいと言ってしまうと心をなくすわけで。世の中が便利になればなるほど、「生きる力」がなくなっていく。スマホ一つでなんでもできる気になっていると、災害で電気が止まってしまったら、今の人、きっと何もできないですよ。

■私も炊飯器が壊れて、どうしようと思ったんですが、そうだ土鍋で炊けばいいんだと。そうしたら、おこげができて、でも、それはそれで美味しいなと、そういうことですね。

そうです。ここでは幼稚園の子どもや3、4歳児のおむつしているような子どもも集めて講座も開いていますが、面白いのは、４月最初に来たときは何もできず、ママから離れると、ワーワー泣き出す子どもばかりです。でも、活動をしていると、どんどん逞しくなってくる。新しい子がやってくると手を引っ張り、森のなかへ入って、あーでもない、こーでもないと教えるのです。坂の上り下りで平衡感覚がついて、木登りで落ちないようにすればどうすればいいのかと、知恵がついてくるのです。

■成長しているのが見えて、うれしいですね。

今は枠をはめて、ルールで縛りつけちゃって。安全に、怪我をしないようにと、先生が子どもを守ってしまう。斜面を下りるときに、子どもの手をつないでしまう。守ってしまうと子どもたちのできることが狭まってしまうので、できるだけ広げてあげたい。いろんなことにチャレンジしてもらいたい。こちらの親子のプレーパークでは、三世代の方がきてくれて、ダイナミックに高さ5mのジャングルジムを作って遊んでいますよ。

■大きいですね、ボランティアスタッフがつくっているのですか。

参加者のお父さんを巻き込んで、「手伝って、一緒に手伝って」と。竹で三角形をつくって、木に引っ掛けるんですよ。固定させて、下から縛るよと、次から次へと作りあげていく。全部できると、子ども乗っていいぞと。こんなのも、やっぱりふだんはできないし、お父さんたちも、はじめは自分でできるとは思わない。でもちょっと教わってみるとできる。できると「俺が作ったのだから、のぼれよ、写真撮ってやるから」と、ジャングルジムに愛着がわいてくる。みんなで一緒に作りあげるとやはり楽しいですよね。

■「怪我と弁当は自分持ち」ですか。

「怪我は自分持ち」です。降りてこられない子は、登っちゃいけない。それで、いいんです。横並びでなくても

「怪我と弁当は自分持ち」（けがとべんとうはじぶんもち）
【意味】自分で負った怪我は自分の責任だ、という職人の間で言われている言葉。

いいんです。でも、お兄ちゃんが登っているから自分も登ろうと、その勇気が大事。でも実は、１度子どもが落ちたこともあるんです。ジャングルジムって四本足をイメージすると思うけど、四本足にすると落ちる。直角だからツルーンといっちゃう。しかし、三角形にして木にかけるよう斜めに組み立てると落ちない。そういうことも、我々もやってみて経験して分かるんです。

■経験や知恵が、大事なポイントなんですね。

実際、活躍する場があるというのが大事です。バーベキューのインストラクターの資格をサラリーマンのお父さんが取得しても、すぐに人前で実演できるわけではない。先輩のインストラクターに教えられ、徐々に覚えていく。車の免許と同じで、取得してすぐの運転はこわい。若葉マークがとれてようやく安心して乗れるようになる。試運転する場があって、だんだん慣れていく

■失敗しながら学んでいく、みたいな。

そういう場があるのもここの良さ。お子さん連れてきたお父さんが、バーベキュー、ツリークライミング、ブッシュクラフトと資格を取って、学んでいくうちに、こちらの職員になってしまったケースもある。また、こちらで冬にお味噌づくりをしていて、麹から手作りしています。皆さんに教えていたら、この周りの人たちは、麹からみんなお味噌をつくるようになった。

■地域の文化を作ってしまっていますね。

ここの応援団というか、お金を払っているわけではないが、好きで来てくれています。14年経つのですけど、皆さんプロフェショナルになって、人も育って、私たちも育っています。

■将来こういったところにチャレンジしていきたいというのはありますか。

今、現実に計画しているのが、薪ストーブを入れること。薪ストーブがあれば、電気やガスが止まっても暖を取ることができ、災害時に役に立ちます。ここは避難所に指定されていないけど、何かあったときに受け入れができる場所にしていきたい。薪を作るのは大変ですが、職員がふだんやっていれば、いざというときにできるので。また、木は切らないと強い木のみが残って暗くなってしまう。切って次の木を育てていかないと。自然を循環させることが大事。

■よく高齢化の問題が取り上げられていますが、次世代のネーチャーボランティアをどのように育てていますか。

意外に大学生が来てくれているんですよ。はじめは、ブッシュクラフトの箸やコップ作りからスタートして、次は、柵をつくったり、チェーンソーを扱ってみたりと。若い世代が目を向けています。ベテランも大事ですが、そこに集まる人のつながりが大事。同世代の心地よい関係もいいけど、若い指導者を育て、下の世代のチームをつくっていかないといけない。地域の緑地に旗振り役がいて、人の輪でつながっていったらうれしいなと。

麻生区には竹林など沢山あります。ボーイスカウトが手を入れるという条件で、森を所有する地主さんに活動の場について相談できたり、里山の活動団体さんが、珍しい花が咲くから、ここに遊歩道を敷いて、みんなにに見てもらえる場所にしようとか。みんなで少しずつ、荒れた森を変えていければいいなと思っています。麻生区の自然豊かなところを活かし、応援団を増やしていきたいと考えています。

■子どものころに自然の良さを体験していれば、地域の理解も深まるかもしれませんね。

ありがたいのは、うちのような野外活動をメインとした施設は川崎市に一つしかない。横並びにされ、出る杭は打たれる、ということがないのがありがたいですね。

■地域と密着してやっていらっしゃるのがよく分かりました。ふだんは文明の利器に頼っているけど、知恵を持つことが大事だということも。

災害のときはみんな意識しますね。身近なこととして意識し、不安になるんじゃなくて、知恵を付けて少しでも安心すればと思います。先日開かれた長沢中の災害訓練は、さまざまな世代が集まりました。こんなに人が来るんだと驚きました。

一つ自慢していいですか。実は、うちの施設、利用率100％を超えているのです。宿泊定員で計算すると超えてしまう。特に冬場に沢山人を集めています。先に紹介した通り、寒い冬にさまざまなイベントを開催しているので大勢の方に来ていただいています。閑古鳥の時期にどう集めるのか、がアイデアの出しどころなのです。

■まさに黒川マジックですね。

よく夏にドラム缶ピザを行いたいというのですが、やめてください、暑すぎて倒れますよと。

今はすごく気温が変わっちゃっているから、夏は流しソーメンで我慢してくださいとお願いしています。